

身近な男に勧められ乱用

著名人の薬物乱用事件が相次ぎ、薬物汚染の広がりが浮かび上がった。特に女性は依存症になりやすく、治療も難しいなど深刻な実態がある。民間のリハビリ施設「ダルク女性ハウス」(東京都北区)で薬物依存の女性取材した。

サチコ(38)が覚せい剤を初めて使ったのは18歳の時。遊び仲間の男友達に「エス(覚せい剤の隠語)やらない？」と誘われ、銀紙の上であぶって吸った。

専門学校で学生時代は試験前に徹夜で勉強する時、就職してから出勤前に「気分をシャキッとさせるため」、家や駅のトイレで少量使った。20歳代で付き合い始めたサチコ(38)の男性は大麻を乱用しており、誘われて大麻を吸った。彼に太ったと言われた時に、覚せい剤を使えばやせられると思い、しばらくやめていたのを再び使った。みるみるやせ、うれしかった。借金が増え膨らんだ。「売人の運転手をやればお金をあげる」と言われ、夕方まで働いた後にせつせと運び屋を務めた。

夜中に寝ておらず、ガリガリにやせていたが、仕事前に

覚せい剤を使うと「ビビビビ」と元気になった。職場で「何か使ってるんじゃないの」と言われたこともあったが、自分ではやめられなかった。薬物に関して「乱用」「依存」「中毒」の3段階があることは、あまり理解されていない。国立精神・神経センター(東京都小平市)薬物依存研究部部長の和田清さんによると、1回でも使えば「乱用」だが、乱用を繰り返すうちに、薬物を使いたいという欲求をコントロールできない脳の異常状態になる。これが「依存」。サチコは「依存」だった。

「中毒」とは、幻覚や妄想など精神的にも身体的にも異常な症状が出ることをいう。女性の薬物乱用の特徴は、身近な男性から誘われたり勧められたりして使い始めること。さらに依存症になりやすいことだ。

厚生労働省の研究室による調査(2008年)では、全国の精神科医療施設が対応した薬物乱用者(男性1933例、女性90例)のうち、依存症と診断された女性は50%。男性の29%をはるかに上回る。また、覚せい剤の乱用開始から依存症になるまでの平均期間は男性が2・5年、3・5年なのに対し、女性は1・9年、2・3年。女性の方が短期間で依存の状態に陥りやすいことが分かる。その理由は解明されていない。

ダルク女性ハウス代表の上岡陽江さん(52)は「薬物乱用者は逮捕されれば一定期間は薬物をやめる。でも、依存症



ダルク女性ハウスでは7人の女性が共同生活を送りながら、薬物依存からの回復を目指す。三輪洋子撮影

取り締まり重視、治療手薄

を治療しなければ、しばらくすると再び使いたくなり、乱用を繰り返す」と言う。フミコ(38)は6回、通算7年近くの刑務所経験があるが、服役中は「いかに反省しているか取り繕い、クソリをまた使うことだけを目標に過ごした」。出所すればその日のうちに、出所祝いと称して仲間と覚せい剤を使った。(文中の当事者は仮名です)

20歳代後半の主婦。子どもはいません。友人の結婚や妊娠、出産の話や聞くと悔しくなります。「不幸になればいい」とさえ思ったりします。最近友人が妊娠したのですが、張り合おうとして焦っています。そんな気持ちで妊娠したとしても子どもがかわいそうだと思いません。将来、成長の各過程で他の子と比べてしまいがち。自分の子が劣っていたらひどく当たってしまうのではな

友人の妊娠喜べない

いか。そう思うと妊娠するということにも不安を感じます。夫は本当に優しく関係も良好です。友達の妊娠を喜べないことを話すと、「自分たちのペースでいこう」と言ってくれます。私は心が狭く、本当に性格が悪いのです。こんな性格は直したい。でも、人の不幸を願う気持ちがフツフツとわいてきます。自分でも抑えきれなくなるのではと怖くなります。

(兵庫・D子)

人生案内

野村 総一郎
(精神科医)

他人に嫉妬しない方が良 できないほど大きい。もち